

N151 156

154

核融合情報文献センター
 運営方案

33年5月9日

担当者 石谷清幹

1 事業項目

- a) 機関誌発行
- b) 情報文献の集約
- c) 文献複写の依頼に応ずる
- d) その他必要な事業

2 運営方法の概要

機関誌は超高温研究会と協力して発行する。
 その他便宜上センターは阪大工学部内に設ける。
 現在超高温研究会は専任の書記1名を有するがその所属は従来通りとし新たに核融合懇談会所属の主事1名をおき、文献センター担当者石谷助教の下に事務局を構成する。

3 機関誌発行の方法

- a. 謄写版印刷、100ページ、500部、6月号より毎月下旬発行。核融合懇談会員には一部ずつ無償配布。超高温研究会員には会費と引換で配布。購読希望者には実費配布。
 (原稿のあつまる状況をみていて適当な時期に活版印刷に切換えることは含みとして考えている)
- b. 内容は簡単な思いつきから完成した論文までのあらゆる段階の報告、文献紹介、研究に関するニュース、会員の動静等、気楽にため、気楽にかけるものとする。
- c. この機関誌が成功するかどうかは興味深い原稿が集まるかどうかにかかるとする。

めには格段の努力をすることとし、つぎの規定を設ける。

- A. 原稿料を出す。(種類を問わず一律に刷上り1ページにつき200円、250円、300円、400円)
- B. 東京から毎月責任をもつて原稿を送るグループを定め、そのグループには原稿料以外に取材用交通費として月額2,000円、3,000円、4,000円を支拂う。(このグループとしては日大工学部を予定している)
- d. 機関誌の名義や内容編成の方法については(A)現在の超高温研究資料をそのまま踏襲する(ただし編集兼発行者は核融合懇談会とし事務局所在地のみ超高温研究会となる。)案、(B)超高温研究資料中に特別のセクションを設ける案とが検討されたが、結局A案の方に落着きかけている。御討論を乞う。参考までに既判の超高温研究資料のページ数内訳を表示しておく。

	巻頭言		研究報告		論文		解説		講義		文献紹介		ニュース		誌上稿	
	件数	頁数	件数	頁数	件数	頁数	件数	頁数	件数	頁数	件数	頁数	件数	頁数	件数	頁数
Vol.1 No.1	1	?	2	?	1	?	0	0	0	0	3	?	0	0	0	0
" 2	1	?	1	?	2	?	1	?	0	0	1	?	0	0	0	0
" 3	0	0	1	9	2	6	2	25	0	0	2	15	0	0	0	0
" 4	0	0	3	10	1	5	1	8	0	0	1	3	1	3	0	0
" 5	1	2	0	0	2	15	0	0	0	0	1	1	1	8	0	0
" 6	2	3	1	7	2	25	3	21	0	0	2	14	0	0	0	0
" 7	0	0	8	33	0	0	0	4	27	0	0	0	0	0	0	0
" 8	0	0	1	6	2	16	1	12	0	0	2	16	0	0	0	0
" 9	1	7	0	0	2	?	1	?	0	0	0	0	0	0	0	0
" 10	0	0	0	0	3	30	2	22	0	0	1	6	0	0	0	0
" 11	0	0	1	6	2	18	1	11	0	0	0	3	2	0	0	0
" 12	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	1	7	2	0	0	0
Vol.2 No.1	0	0	0	0	1	11	2	43	0	0	0	0	0	0	0	0
" 2	0	0	0	1	2	11	0	0	0	0	0	5	9	3	11	
" 3	0	0	0	0	1	18	1	17	0	0	0	1	2	0	0	
" 4	0	0	0	0	2	18	0	0	0	0	2	12	2	0	0	
計	6	5	18	71	26	179	15	159	4	27	16	74	15	54	3	11

4 情報文献収集の方法

- a. 雑誌は一応下記を予定している。
 - o Journal of Nuclear Energy

- Soviet Journal of Atomic Energy
 - Atomnaya Energiya
 - 全上翻訳誌
 - Nucleonics
 - Atomics and Atomic Energy
 - Journal of Nuclear Engineering
 - Physical Review
 - Review of Modern Physics
 - Section A of the Proceedings of the Royal Society
- b. 単行書は今後刊行されるものを主体とし既刊のものは特に主要なものに限る。なおレプリカは極力買っておくことにする。
5. 以上に要する実行予算
- a. 印刷費 100ページの雑誌500部につき4万円。これを6月号から明年3月号まで10回出すから総額40万円。この費用は超高温研究会と折半し核融合懇談会としては $40/2 = 20$ 万円を負担する。
原稿料および東京ケループ謝礼 20万円
事務費および郵税 超高温研究会負担
機関誌関係 合計40万円
 - b. 雑誌および図書費 30万円
 - c. 事務局主事謝礼
月額 15000円 (今月号から明年3月号11回分) 16.5万円
別にボーナスおよび交通費 6.5万円
- 総計 $40 + 30 + 23 = 93$ 万円
- 註1-事務局用備品、消耗品; 車庫用備品、消耗品;
編集関係諸雑費、光熱費等は超高温研究会で負担する。
2. 途中で機関誌を活版すりに切換える場合には図書および雑誌の費用を一部これ

に充当することがある。
3. 文献複写は写真複写とし実費全額を依頼者の負担とする(規定は別につくる)。